（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふれあいみらいキッズ			
○保護者評価実施期間	利用人数０名のため未実施　　年　月　日		～	年　月　日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	0	（回答者数）	
○従業者評価実施期間	令和８年　10月　1日		～	令和８年　10月　14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和８年　10月　29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通信・SNSや連絡ツールを活用した、保護者への丁寧な情報発信	多機能型事業所として同室で行っている放課後等デイサービスでは、以下のような取組を行っている。 ・活動の狙いの事前発信： 連絡ツールを活用し、活動の内容や「何を育むか」という意図・狙いをあらかじめ保護者へ共有。 ・日々の療育の様子やアルバムの公開： ブログやInstagramを通じた日々の活動報告のほか、事業所に自由に閲覧できるアルバムを設置。	ブログやインスタグラム等の更新頻度を高め、情報発信をさらに強化する。
2	保護者や職員からの意見を収集し、業務改善につなげている。	・社内で定期面談を行い、業務上で困っている事等を聞いている。 ・保護者評価や保護者との情報共有を通して、課題点はその都度職員間で共有を行い、改善に向けた対応をしている。	業務改善としてあがったものについて、よりよい改善ができるよう、定期的に改善点がないかの振り返りを行う。
3	状況に応じた柔軟な対応	多機能型事業所として同室で行っている放課後等デイサービスでは、スペースが限られている中で、近所の公園に出かけて体を動かす等、状況に応じて柔軟な対応を行っている。	外出も利用したプログラムを充実させ、限られたスペースで窮屈な気持ちにならないように工夫する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーや情報伝達への対応、構造化された環境・専用スペースの不足	建物構造上バリアフリーが未対応であり、部屋数が少なくクールダウン用の個室がないこと。	・折りたたみスロープの導入と活用 ・パーテーションによる空間の区切りと騒音対策
2	第三者による外部評価の実施と、結果を活かした業務改善の不足。	これまで第三者評価を受ける体制や仕組みが十分に構築できていなかったこと。	・来所された地域関係機関の各職種からの意見聴取 ・外部の視点を取り入れた開かれた事業所づくり
3	職員の質の向上機会の不足	・現在実施予定の研修が滞っており、職員向けの研修機会が不足している。 ・専門分野に特化したスタッフが少なく、情報を提供できる人材が限られている。	。外部の研修についての情報提供を行う。 ・専門分野に特化した人材を雇用する。 ・業務改善を行い、研修時間を確保する。